

令和2年度 東久留米市立 大門中学校

学校評価報告書

学校教育目標 「健康」「責任」「友情」「創造」「努力」を尊重し実現する資質を備えた人間を育成し 生徒一人一人に幸せな未来を切り拓く力を育てる そのために、 ○安全・安心な学校生活を保障する。 ○これからのグローバル社会に生きる力をイメージする。 ○生徒一人一人の力を最大限に伸ばす。	教育 ビ ジ ョ ン	【目指す学校像】 (1)生徒に生きる力(確かな学力、豊かな人間性、健康と体力)を育む学校 (2)生徒の自己有用感を高め、可能性を最大限に伸ばす学校 (3)保護者や地域社会の期待に応え、生徒と教師の信頼関係が築かれている学校	(1)生徒に生きる力(確かな学力、豊かな人間性、健康と体力)を育む学校 (2)生徒の自己有用感を高め、可能性を最大限に伸ばす学校 (3)保護者や地域社会の期待に応え、生徒と教師の信頼関係が築かれている学校	
		【目指す児童・生徒像】 (1)目標に向かい主体的に学び考え行動する生徒 (2)自分の役割や責任を認識し、そこに価値を見出し自己肯定感をもつ生徒 (3)心身の健康を保持増進し、自分の可能性に挑戦する生徒 (4)課題解決への意志をもち、よりよい未来社会を創造しようとする生徒		(1)目標に向かい主体的に学び考え行動する生徒 (2)自分の役割や責任を認識し、そこに価値を見出し自己肯定感をもつ生徒 (3)心身の健康を保持増進し、自分の可能性に挑戦する生徒 (4)課題解決への意志をもち、よりよい未来社会を創造しようとする生徒
		【目指す教師像】 (1)授業を大切に、生徒一人一人の力を伸ばさせるため、常に授業力の向上を目指す教師 (2)厳しさと温かさを兼ね備え、生徒一人一人の個性や可能性を伸ばすとともに、生徒に社会人としての範を示す教師 (3)生徒、保護者や地域社会の期待に応え、厚い信頼を得る教師		(1)授業を大切に、生徒一人一人の力を伸ばさせるため、常に授業力の向上を目指す教師 (2)厳しさと温かさを兼ね備え、生徒一人一人の個性や可能性を伸ばすとともに、生徒に社会人としての範を示す教師 (3)生徒、保護者や地域社会の期待に応え、厚い信頼を得る教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】生徒の自己有用感・自己肯定感の向上、いじめ問題への対応、道徳授業での取り組み 【課題】職員の健康、不登校生徒対応、特別支援教室の活用、学校図書館の活用			

4:高く評価できる
3:評価できる
2:部分的に見直しが必要
1:全面的に見直すべき

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価	次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和4年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価(平均)	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	○キャリア教育の充実とそれによる自己肯定感の強化	○ドリームマップ授業による自己肯定感の強化 ○地域清掃への積極的参加による自己有用感の強化	○外部人材によるドリームマップ授業の有効活用 ○地域清掃への参加呼びかけ	○生徒アンケート回答での自己肯定感有りが A:85%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	3	(79%) 3	3.5	・キャリアパスポートの活用(振り返りによる自己肯定感の向上) ・国際社会で活躍してきた経験のある講師による講演授業
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	○道徳の授業改善	○道徳の評価についての適切な方法の開発 ○主体的・対話的な道徳の授業への工夫	○主体的・対話的な道徳の授業についての校内研修の実施 ○道徳の評価についての検討・修正	○生徒アンケートで取り組みへの肯定的評価が A:85%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	3	(82%) 3	3.5	・ローテーション道徳の推進で各自の授業の工夫の学び合いと、研鑽
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	○学校いじめ防止対策委員会を中心とした未然防止、早期発見、組織的な対応の確立	○学校いじめ防止対策委員会を中心とした、職員の意識啓発による未然防止、早期発見、組織的な対応	○学校いじめ防止対策委員会を30回/年実施	○生徒アンケートで取り組みへの肯定的評価が A:85%以上 B:70%以上 C:50%以上 D:50%未満	4	(84%) 3	4	・いじめアンケートの回数を増やし、早期の対応につなげる ・校内委員会と生活指導部会の連携
4	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	教育相談体制の充実	○不登校生徒への適切な対応、及び外部機関等との適切な連携による、卒業後も含めた指導	○校内相談委員会での適切な情報の随時共有と外部機関との適切な連携 ○不登校生徒の外部機関とのつながりの確保	○生徒個々の状況の随時把握 ○特別支援コーディネーター、SC、SSWを交えた教育相談委員会を30回/年実施 ○外部機関との適切な連携	○状況改善が見られる生徒が A:60%以上 B:40%以上 C:20%以上 D:20%未満	4	4	4	・ハイパーQUを4月当初と2学期の年2回実施し要支援生徒への早期対応につなげる
5	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	○新学習指導要領導入に合わせての校内研修等での授業改善	○新学習指導要領に対応した授業と評価の一体化 ○主体的・対話的で深い学びに向けた各授業での工夫による改善	○各教員の校外研修の還元 ○授業改善推進プランでの工夫	○生徒アンケートでの授業の工夫について肯定的評価が A:85%以上 B:70%以上 C:50%以上 D:50%未満	4	(77%) 3	3.5	・主任教諭による模範授業参観後の報告において、指導と評価の一体化・評価計画にポイントを絞ったOJTを毎回短時間で行う
6	II 学力向上	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	英語教育と国際理解教育の推進	○英語科での生徒の学びに向かう意欲の向上と国際感覚の醸成	○英語科の少人数授業による学びに向かう意欲の向上	○生徒の意欲向上のため、少人数である事を生かし、毎時間主体的活動を取り入れる。	○生徒アンケートで英語科授業についての肯定的評価が A:85%以上 B:70%以上 C:50%以上 D:50%未満	4	4	3.75	・全学年でのTOKYO GLOBAL GATEWAYの体験
7	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	○ICT機器の効果的な利用による、生徒の学習意欲の向上	○ICT機器の整備と教員の利活用のスキルの向上。	○ICT機器の整備を進め、半数以上の教員が日常的、効果的に活用できるスキルを持つ。	○授業で機器を利用する教職員が A:60%以上 B:50%以上 C:40%以上 D:40%未満	4	4	4	・プロジェクターと貼り付けスクリーンの拡充による全教室でのICT利用の簡便化 ・生徒タブレット・デジタル教科書の使用方法の研究
8	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	○特別支援教室の活用と充実	○特別支援教室についての保護者と全校生徒の理解 ○特別支援教室運営・活用のための体制の充実	○全校生徒への特別支援教育の意義目的の理解推進 ○支援教室対象生徒保護者との連携	○状況改善が見られる生徒が A:60%以上 B:40%以上 C:20%以上 D:20%未満	4	4	4	・校内委員会との連携・各担任との連携の充実
9	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	学校図書館の活用と充実	○学校図書館の利活用の推進	○保護者・地域からのボランティアと連携しての学校図書館の機能の充実	○図書館ボランティアを募集、図書館管理員や担当教諭との連携による、図書館開館時間の拡大	○生徒アンケートでの肯定的評価が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	3	(85%) 4	3.75	・朝読書の再実施 ・読書履歴カード、紹介カードを活用しての読書推進 ・図書ボランティアや生徒委員会等を利用しての図書館開館時間の工夫
10	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	4×4の取組	4×4の取組	○オリンピック・パラリンピック教育を通しての人権感覚と国際感覚の醸成	○人権感覚の醸成	○外部講師を招いての講演会での意識啓発	○講演会後の感想アンケートで意識の向上が見られるものが A:90%以上 B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満	3	4	4	・観戦記録の作成と保管による形としてのレガシー作り ・外部講師を招いての講演会
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	○学校行事、業務の効率化・スリム化 ○職務と職員の健康やプライベートの充実を両立させることのできる職場環境	○年次有給休暇の計画的取得の推進 ○勤務時間の縮減による、効率化への意識改革	○平常時の午後8時00分退勤の推進 ○年次有給休暇の計画的取得の推進	職員アンケートの満足・おおむね満足が A:70%以上 B:50%以上 C:35%以上 D:35%未満	2	2	2	・生活時程の見直し ・校務分掌の整理 ・部活動の活動時間の見直し